

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I II V 】
2 実施対象者	<p>学校名 館山市立第二中学校</p> <p>対象学年 全校 7/11</p> <p>第1学年 11/2、11/8、11/16</p> <p>第2学年 11/30</p> <p>第3学年 11/2</p> <p>人数 全校 308人</p> <p>第1学年 98人</p> <p>第2学年 96人</p> <p>第3学年 114人</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (館山若潮マラソン (スポーツボランティア))</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>全校 オリンピック・パラリンピックへの理解を深める。生涯を通じてスポーツに親しむ意欲・態度を育てる。</p>
5 取組内容	<p>【全校】</p> <p>講演：「オリンピックへの道」</p> <p>講師：モンテリオールオリンピック金メダリスト 田村悦智子 氏</p> <p>市内在住のモンテリオールオリンピック女子バレーボール金メダリストで、2020年東京オリンピック・パラリンピック館山市推進本部長の田村悦智子氏の講話により、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせると共に、一流選手の話からスポーツの楽しさ・素晴らしさを学んだ。</p>



【第1学年】

講演：「館山市と2020年東京オリンピック・パラリンピック」

講師：館山市スポーツ課 宮澤知幸 氏

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、地元館山市の取り組みを市スポーツ課の宮澤氏に紹介していただいた。館山市の地の利を生かした取組を行っていることを説明していただき、より身近なものとしてオリンピック・パラリンピックを感じさせることができた。



講演：「スポーツボランティアと私」

講師：日本スポーツボランティアネットワーク 竹澤正剛 氏

グループワークなどを通じ、リーダーシップ、フォロアーシップの必然性やチーム（個々が尊重された上で同じゴールを目指す集団）で様々な課題を乗り越えていく過程を学んだ。リオデジャネイロ・オリンピックのスポーツボランティアを経験された時の話からは、東京オリンピック・パラリンピックへの関わりについて考えさせられた。



1月には、館山市で開催される館山若潮マラソンへスポーツボランティアとして参加し、本講演から学んだスポーツを「支える」という立場を体感する予定である。

講演：「オリンピックへの道」

講師：ロンドンオリンピック・トライアスロン日本代表 細田雄一氏

講演会では、細田選手の競技にかける思いや、夢を持つことの素晴らしさを知ることができる。また練習前、練習後に取り組んでいる腹筋トレーニング（故障防止）を体験した。またグラウンドを一緒に走ったことで、一流選手のすごさ、スピードを体感することができた。



【第2学年】

講演：「ダイエットするの？」

「なぜけがををするのだろうか？」

講師：千葉科学大学 教授 田井中 幸司 氏

講演会では、ダイエットが体に与える影響を具体的に知ることができた。また、スポーツとけがとの関係についても実際に体を動かしながら体験を通して実感することができた。



【第3学年】

講演：「グローバルマナーとおもてなしの心」

講師：筑波大学客員教授 江上いずみ 氏

元JAL客室乗務員の「おもてなし学」の講話から、第一印象を高めるための5原則（表情・態度・身だしなみ・言葉づかい・挨拶）や、誰かの一番がほかの誰かの一番とは限らないなど、色々なことを具体的な例を挙げて話していただいた。



6 主な成果

オリンピック・パラリンピックへの理解を深め、生涯を通じてスポーツに親しむ意欲・態度を育てる講演が行われた。

トップアスリートやそれを支える様々な立場の人たちの話を聞くことで、オリンピック・パラリンピックをより身近なものとして、とらえるきっかけを作ることができた。

オリンピック・パラリンピックに向けた市の取組を知ることにより、「見る」「する」スポーツに加え、スポーツを「支える」立場（スポーツボランティア）の心を育成することができた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

全校での講演だけでなく、各学年独自の取組が行われたことで、それぞれの学年にあった内容で学ぶことができた。講演を聴くだけでなく、体験活動も取り入れることができた。

市のスポーツ課との協力・連携により、地域を挙げてオリンピック・パラリンピックを成功させていこうという雰囲気を作り上げることができた。

8 主な課題等

講演を行う講師の方の日程がうまってしまい、お願いすることができなかった方がいたこと。

9 来年度以降 の実施予定	本年度、すべての学年において満足のいく活動を行うことができた。現在のところ来年度に関しては未定である。
------------------	---